

代替法検討委員会

今回、全国の獣医系大学におけるスキルスラボ設置に関わる資金源と費用の実態について調査を行いました。各大学のカリキュラムや教育体制が異なるため、費用や資金源には大きなばらつきがあり、単純に比較することは困難でした。しかし、スキルスラボは動物愛護の観点から不可欠であると同時に、学生教育の標準化を推進する上でも重要な役割を担っています。本調査を通じて明らかとなった各大学の取り組みや工夫を全国的に共有することは、教育の質の保証に大いに資すると考えられます。そのため、全国的な整備指針と支援体制の確立を強く提案いたします。

1. 生体使用時の費用

大学によって記録の有無が異なり、不明としているところも少なくありませんでした。記録がある大学では、小動物で数十万～200万円前後、大動物ではさらに高額となる傾向がありました。生体使用教育時には多額の費用が投じられていたことがわかります。

2. スキルスラボ設置前の費用

多くは「授業運営費」「研究実費」「教員の研究費」などに依存しており、大規模な投資は行われていませんでした。支出は数十万円規模にとどまる例が多く、明確な資金枠を設けていない大学も見受けられました。生体を使用しなくなったことで、従来の実習費用が他の用途に充てられるようになった可能性も考えられます。

3. 設置時の費用と資金源

スキルスラボ設置費用は大学により大きく異なり、数百万円から1,000万円以上、中には数億円規模に達する事例も確認されました。国内で販売されているほぼすべての代替模型を揃えた大学がある一方、簡単な皮膚縫合モデルの導入にとどまる大学もあり、教育環境の差は顕著です。資金源は「大学運営費」「機能強化経費」「外部資金」「研究費」など多岐にわたり、統一性はなく、大学ごとの特色が表れています。ただし、スキルスラボの十分な整備には大規模な投資が不可欠であることは明らかなです。

4. 年間運営費

年間運営費は大学によりゼロから150万円以上と幅広く、平均すると50～150万円程度が多く見られました。小動物・大動物の共用や重点の置き方によっても費用構造が異なります。スキルスラボは設置すれば終わりではなく、継続的に代替教育を実施することが重要であり、そのための安定した費用確保が求められます。生体使用時に投じられていた費用が、現在は必ずしも代替教育に十分充てられていない状況がうかがわれます。

5. 大動物と小動物での違い

小動物モデルは比較的導入しやすく、数十万円規模で整備可能な場合が多いのに対し、大動物モデルは高額であるため導入は限られています。山口大学や宮崎大学のように小動物と大動物を組み合わせる事例もありますが、その比率や重点は大学ごとに大きく異なります。

6. 全体として

本調査を通じて、スキルスラボ整備には大学ごとに多様な背景と事情が存在することが確認されました。特に以下の点が重要であると考えます。

- ・費用と資金源に大きなばらつきがあり、教育の質の差につながっている。
 - ・大学間の格差を是正するため、全国的な整備指針と支援体制の確立が必要である。
 - ・国や機構レベルでの支援や統一的な資金確保の枠組みが望まれる。
 - ・小動物モデル中心の整備が進む一方、大動物モデルは費用・設備面から導入が進みにくい。
- この状況を大学の特色とみなすか、教育格差と捉えるかは今後の検討課題である。
- ・持続的なスキルスラボ運営によって、獣医学教育の質をさらに高めることができる。

スキルスラボ設置費および継続的運営費の調査

別紙4

北海道大学				
実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		旧臨床診断学実習(現プレクリニカル実習)(4年次:40名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計	万円		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計	万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度/年 ■小動物 ■大動物 □共用	2019年	模型購入費:500万円 施設改装費(電気鍵等増設工事):80万円	大学運営費 (機能強化経費)	
	計	580万円		
年間運営費	2020年以降	費用不明		・ブードル犬ぬいぐるみ、 採血シミュレーターを用い て採血の練習
	計	万円		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		小動物ポリクリ(5年次:40名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計	万円		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計	万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度／年 ■小動物■大動物□共用	2019年	模型購入費	大学運営費 (機能強化経費)	上記の「プレクリニカル実 習」で記載済、科目ごとに 判別し難いため金額は記 載せず
	計	万円		
年間運営費	2023年度までの費用不明 2024年度・小動物導尿シミュレーター他:50万円		大学運営費	・ブードル犬ぬいぐるみ、 採血シミュレーターの採血 練習 ・気管挿管モデルを用いて 気管挿管の練習 ・内視鏡(動物病院で使用 しなくなったものを利用)と マーゲンモデルの内視鏡 検査練習 ・点滴セット、輸液ポンプ (動物病院で使用しなく なったものを利用)を用い て点滴準備の練習 ・膀胱穿刺モデルを用いて 超音波ガイド下膀胱穿刺 の練習
	2020年以降			
	計	50万円		

帯広畜産大学				
実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		内科学実習(4年次:40名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2019年以前	ビーグル犬 4～6頭(初期費用不明、以前からの継続飼育) 動物管理費 36～54万円／年(1頭当たり約9万円)	授業運営費	生体は6～10名で1頭
	計	36～54万円		
スキルスラボ設置前	2018年 ～ 2019年	シリンジ、注射針、輸液セット、留置針、尿道カテーテル等消耗品 7.5万円／年 ワクチン、輸液剤、局麻用ゼリー等薬品代 1.5万円／年	授業運営費	
	計	9万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度／年 □小動物□大動物■共用	～2018年	施設整備費 147万円 物品購入費 57万円		
	計	204万円		
年間運営費	2019年以降	消耗品、モデル等 43万円／年	国際認証関連	
	計	43万円		

岩手大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	小動物内科学実習(4年次:30名)、小動物外科学実習(4年次:30名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	0000年以前		
	計		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年		
	計		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度／年 ■小動物□大動物□共用	2015年 ～ 2020年	医療用・小児腕血管:30万円 消化管内視鏡検査シミュレータ(マーゲンモデル):20万円 手術用皮膚縫合モデル:15万円 イヌの心肺蘇生法練習モデル:15万円 ほてい君	大学運営費 動物病院内の専任教員室を改装
	計	約80万円	
年間運営費	2015年以降		特になし
	計		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	大動物臨床実習(5年次:30名)、繁殖機能制御学実習(4年次:30名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	0000年以前		
	計		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年		
	計		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度／年 □小動物■大動物□共用	2015年 ～ 2020年	vetOSCE用子牛オブジェ 子牛練習用モデル(頸静脈採血、臍ヘルニア治療、耳標設置、去勢術):70万円 牛全身解剖模型1/6サイズ:70万円、馬全身解剖模型1/6サイズ:70万円 豚全身解剖模型1/6サイズ:70万円、牛解剖図解標本:50万円 牛乳房モデル:20万円、人工授精練習モデル:60万円、デスクトップPC:20万円	大学運営費 動物病院内の臨床講義室を改装
	計	約450万円	
年間運営費	2015年以降	2015年以降	特になし
	計		

東京大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	基礎臨床学実習I、II、III(4、5、6年1学年30名) いわゆる内科実習、外科実習		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	2017年以前	外科系実習・解剖実習で共同使用(犬) 年間10頭程度、企業から譲渡された動物も使用。半数程度を購入 購入5頭(1頭/5万円)＝25万円	教員の研究実費
	計	25万円	
スキルスラボ設置前	2017年 ～ 2024年	実習用消耗品(縫合糸、ドレープ、術衣等) 動物モデル(マーゲンモデル、採血モデル、採尿モデル等)	大学運営費 年度によっては大型動物モデルの購入 ウシの採血用頭部モデル 2020年 (120万円:大学運営経費)
	計	年間150万円	
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度／年 □小動物□大動物■共用	2025年	3D CG viewer購入 150万円	大学運営費 2024から実習室の一部に常設として設置
	計	150万円	
年間運営費	2020年以降	実習用消耗品(縫合糸、ドレープ、術衣等) 動物モデル(マーゲンモデル、採血モデル、採尿モデル等)	大学運営費
	計	150万円	

東京農工大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	OSCE対応の非常設スキルスラボとして(対象学年4年、約40名)			
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計	万円		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計	万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり □なし 日程度/年 □小動物□大動物□共用	0000年			
	計	万円		
年間運営費	2023年以降	針付糸、ガウン、手袋等消耗品購入費:40万円/年 聴診器、タブレット、電子体温計等購入費:16万円	大学運営費	
	計	56万円		

岐阜大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	小動物外科学実習(4年次:30名)			
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2010年以前	ビーグル犬(6頭:10名1頭で隔週使用)購入費:120万円/年 動物食事代:20万円/年(業者による期限切れ直前の譲渡によるが多かった) 動物管理費(学生アルバイト代):37万円/年	大学運営費	生体は10名で1頭
	計	177万円		
スキルスラボ設置前	2011年 ～ 2020年	皮膚パッド購入費:6万円/年 食物残渣購入費:2万円/年 針付糸等消耗品購入費:2万円/年	教員の研究実費	他に手術ビデオ視聴と動物病院手術見学教育効果の低下
	計	10万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度/年 ■小動物□大動物□共用	2021年	施設改装費:120万円、備品購入費(手術器具、ドレープ、スリッパ等):100万円 模型購入費(破壊:腹部臓器):200万円、模型購入費(非破壊:注射、整形検査等):500万円 模型開発費(臓器金型製作等):380万円	大学運営費	動物病院図書室を改装
	計	1300万円		
年間運営費	2022年以降	模型購入費(手術模型):150万円/年 針付糸等消耗品購入費:2万円/年	クラウドファンディング:1019万円	教育効の果向上(試験、アンケート結果) ポリクリへのスムーズな導入
	計	152万円		

鳥取大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	プレクリニカル実習A,B(旧科目名:内科学実習Ⅰ、Ⅱ、外科学実習)(4年次:38名)			
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2022年以前	ビーグル犬(8頭:5名1頭で計10回使用)購入費:130万円/年 飼料代:11万円/年 動物管理費(学生アルバイト代):58万円/年	学科経費(旧「解剖体経費」)	
	計	199万円		
スキルスラボ設置前	2010年 ～ 2016年	シミュレーター購入費(皮膚縫合など):8万円/年	教育用経費、教員研究費	
	計	56万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり ■なし 10日程度/年 □小動物□大動物□共用	2016年	シミュレーター購入費(皮膚縫合、CPR Dogなど):55万円/年 手術用手洗い台(常設):141万円 針、縫合糸、手術用ガウン、手袋等消耗品購入費:119万円/年 その他の実習機器購入費:311万円/年	学長裁量経費(530万円)+学科 経費	必要時のみスキルスラボ を設置
	計	626万円		
年間運営費	2023年以降	シミュレーター購入費(皮膚縫合など):4万円/年 針、縫合糸等消耗品購入費:5万円/年 手術用ガウン、手袋等消耗品購入費:6万円/年	学科経費	
	計	15万円		

山大学

別紙4

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		〇〇実習(4年次:00名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計 万円			
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計 万円			
スキルスラボ設置時費用	施設改装費:50万円、模型購入費(小動物:120万円、大動物:380万円)		学部運営費	実習室をスキルスラボに 転用
常設	2017年	備品購入費(手術器具、棚、WEBカメラ等):30万円		
■あり		消耗品購入費(針付糸、グローブ等):10万円		
□なし 日程度/年	計	590万円		
□小動物□大動物■共用				
年間運営費	2018年以降 模型購入費(交換部品代も含む)(小動物:80万円/年、大動物:80万円/年)		学部運営費:650万円 クラウドファンディング:473万円	特に大動物(牛、馬)の模 型の有用性が高い
	計 160万円			

宮崎大学				
実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		畜産学実習(3年次:30名)、動物衛生学実習、臨床繁殖学実習、獣医外科学実習1、小動物内科学実習(4年次:30名) 獣医外科学実習2(5年次:30名)、画像診断学実習(6年次:30名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	～現在	牛飼養管理費(飼料代、衛生消耗品など):80万円 ビーグル犬(8～10頭:10名1頭程度で各実習ごとに使用)購入費:150～200万円程度(推測) 都度、入れ替え(30～40万円/頭) 動物食事代:20～30万円/年(犬) 動物管理費(学生アルバイト代):0～30万円/年(犬)	大学運営費 大学運営基盤経費 (担当教員負担)	現在も、スキルスラボと生体を併用している 他に、動物病院手術見学、動物病院PACS画像を用いた診断演習など
	計	130～190 万円 / 年		
スキルスラボ設置前	2011年 ～ 2024年	消耗品費(ガウン、縫合糸、器械など):30万円/年 犬および牛模型購入費:購入費不明	大学運営費 大学運営基盤経費 (担当教員負担)	
	計	30万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度/年 □小動物□大動物■共用	2024年	施設改裝費:大学既存施設を使用(2023年度学部改修工事にて常設用のスペースを確保) 採血モデル購入費:15万円/初年度(2025年) 電子カルテ閲覧用PCおよびアカウント等一式:30万円/初年度(2024年):継続費用は動物病院	大学運営費 学部戦略重点経費	獣医棟改修工事に合わせてスキルスラボを新設した。順次、整備を進める予定。 他に、動画教材の提供など
	計	45 万円		
年間運営費	2025年以降	備品購入費(犬猫モデル、手術器具、ロープ等):90万円 電子カルテ アカウント使用料:5～10万円/年	大学運営費 動物病院運営経費	
	計	95～100 万円		

鹿児島大学				
実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		伴侶動物麻酔手術学実習(4年次:30名程度)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計 万円			
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計 万円			
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり □なし 日程度／年 □小動物□大動物□共用	0000年			
	計 万円			
年間運営費	避妊・去勢シュミレーター購入費:35万円/年 2023年以降 消耗品(手袋・ガウン・糸・針など)関係:18万/年		学内予算	
	計 53万円			

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		産業動物診断治療学実習(4年次:30名)、獣医繁殖学実習(4年次:30名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2012年以前	黒毛和種(2頭:30名で毎週使用)購入費:150万円/年 牛餌代:80万円/年	大学運営費	
	計	230万円		
スキルスラボ設置前	2012年 ～ 2014年	教材用ビデオ作製費 5万円	大学運営費	
	計	5万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☒ なし 60 日程度/年 ☐ 小動物 ☒ 大動物共用	2014年	模型購入費(牛模型):500万円 模型購入費(豚模型):377万円	国立大学改革強化推進 補助金	総合動物実験施設 に設置
	計	877万円		
年間運営費	2015年以降	豚(4頭)購入費:10万円		
	計	10万円		

大阪公立大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		伴侶動物外科実習(旧:獣医麻酔手術学実習、4年次:40-50名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2018年以前	ビーグル犬(16頭、前期8頭、5名/班、後期8頭、維持費、管理費は不明)	大学運営経費	当時を知る教員が不在のため詳細不明
	計			
スキルスラボ設置前	2019年 ～ 現在	伴侶動物外科実習のためのスキルラボはなし 皮膚パッド(6072円x40-50個/年)、腸吻合トレーニング模型(5060円x20-25個/年) 去勢モデル(20240円x20-25個/年)、避妊モデル(32384円x20-25個/年)	大学運営経費	伴侶動物外科実習のためのスキルラボ設置はせず
	計	だいたい150-170万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☒ あり ☐ なし 日程度/年 ☒ 小動物 ☐ 大動物共用	2024年	総合臨床実習のためのスキルラボ設置 皮膚パッド(5000円x2程度)、皮下注射模型(48400円x1)、気管挿管モデル(30万円程度)、ほか消耗品 監視カメラ(5万円程度)	大学運営経費	
	計	だいたい50万円		
年間運営費	2024年以降	消耗品費 約10万円 備品など維持費 約10万円	大学運営経費	
	計	20万円		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		生産動物臨床実習(3年次:40名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前			
	計	万円		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年			
	計	万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☒ あり ☐ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☒ 大動物共用	2024年	牛模型開発費、牛模型購入費(保定、注射用、外固定用)	大学運営経費	
	計	90万円		
年間運営費	2024年以降	牛の去勢シミュレーション関連消耗品購入費:2万円 牛の注射シミュレーション関連消耗品購入費:2万円 牛の外固定シミュレーション関連消耗品購入費:4万円	大学運営経費	
	計	8万円		

実習名：旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		伴侶動物臨床学実習A、伴侶動物臨床学実習B、産業動物臨床学実習A、産業動物臨床学実習B、獣医臨床検査学実習(3、4年次：約140名/1学年)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	0000年以前	カリキュラム大幅変更により比較できず		
	計	万円		
スキルスラボ設置前	0000年 ～ 0000年	カリキュラム大幅変更により比較できず		
	計	万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 日程度/年 ■小動物□大動物□共用	2022～2025年	施設改装費(300,000,000円)、犬マーゲンモデル4(1,100,000円)、犬耳モデル左右(325,600円) 小児超音波診断ファントム 腹部外傷・急性病変モデル2(1,832,600円) 犬前肢バンテージトレーニング模型5(583,000円)、犬気管挿管トレーニング模型5(1,105,500円) 犬臨床トレーニング模型2(1,148,400円)、犬ポジショニングトレーニング模型3(2,541,000円) 犬応急処置トレーニング模型2(831,600円)、犬救急救命ケアシミュレーション模型(774,400円) 犬全身骨格模型レプリカ(377,300円)、犬横側皮静脈注射トレーニング模型20(605,000円) 犬バンテージ・トレーニング模型前・後肢部セット2(937,200円) 牛注射シミュレーション模型2(1,870,000円)、牛の尾の採血実習モデル10(2,200,000円) 牛人工授精シミュレーション茶単色模型(742,500円)、黒白模型(825,500円) 牛繁殖学教育模型2(4,191,000円)、牛子宮妊娠90日後子宮模型(539,000円) コンバクト型牛分娩シミュレーション模型(4,238,300円)、牛腹部模型(1,500,000円) ホルスタイン分娩・乳房炎乳シミュレーション子牛1付模型(7,700,000円) 牛削蹄、足部実習モデル(550,000円)、牛蹄模型(158,400円) 子牛シミュレーション模型2(2,024,000円)、仔牛オブジェ 尻尾ウレタンタイプ2(430,100円) 馬頭部脈穿刺・筋肉注射トレーニング模型(1,515,800円) 馬前肢・触診・放射線検査トレーニング模型2(1,320,000円) 馬結腸触診・静脈穿刺・筋肉注射シミュレーション模型(7,469,000円) 子豚処置トレーニングセット(440,000円)、羊全身模型(456,500円)、豚全身模型(674,300円) 鶏全身模型3(567,600円)、マウスのシミュレーション模型60(2,442,000円) iProphy動物セット(402,050円)	大学運営費	
	計	35442万円		
年間運営費	2024年実績	手術手袋、サージカルマスク、キャップ、ガウン 他 犬横側皮静脈注射交換パーツ、交換用外皮と血管セット 他 牛子宮模型(妊娠90日後子宮)、牛削蹄モデル 外側蹄 内側蹄 他	大学運営費	
	計	248万円		

実習名：旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		小動物外科学実習(4年前期：120名、5年前期：120名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2018年以前	ビーグル犬(12頭；10名で1頭)購入費90万円/年(解剖実習へ譲渡) 動物管理費(食事代含む)：45万円/年 麻酔・鎮静薬等：5万円	大学実習費	
	計	140万円		
スキルスラボ設置前	2019年 ～ 2022年	皮膚パッド、針糸購入費：15万円/年 採血シミュレータ購入費：10万円/年 包帯等の消耗品費：5万円/年	大学実習費	
	計	30万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし ○○日程度/年 □小動物□大動物■共用	2023年	該当なし スキルスラボは常設されているが、小動物外科学実習では使用していない		該当なし
	計	○○万円		
年間運営費	0000年以降			該当なし
	計	○○万円		

実習名：旧名可 （内容がわかりやすい実習名）	獣医内科学実習（4年前期：120～130名）			
調査項目	年度	概算金額（初期設置費または年間運営費）	資金源	備考
生体使用時	～2025年	ビーグル犬（12頭：10～11名で1頭：年5回使用） 購入費：120万円（初回のみ；以降は飼育して毎年使用） 動物食事代：45万円/年	研究室配分の研究費および実習費	生体は10～11名で1頭
	計	165万円		
スキルスラボ設置前	2018年～2025年	採血モデル×10 購入費：350,000円（初回導入費） 採血モデル用のチューブ購入費：1,000円/年	研究室配分の実習費	
	計	35万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり □なし ○○日程度／年 □小動物□大動物□共用	0000年			該当なし
	計	○○万円		
年間運営費	年以降			該当なし
	計	○○万円		

実習名：旧名可 （内容がわかりやすい実習名）	獣医臨床放射線学実習（4年後期：120名）			
調査項目	年度	概算金額（初期設置費または年間運営費）	資金源	備考
生体使用時	2010年以前	ビーグル犬 5頭 購入費用 12万円/年/頭 動物飼育費用 10万円/年/頭（食費、健康管理費含む） 人件費 0円：学生による飼育管理	研究室実習費：大学からの給付	毎年8～10名/班の16班編成 3～4回に分けて保定、撮影実習を行っていた。
	計	110万円		
スキルスラボ設置前	2011年～2019年	X線撮影、超音波検査の実施風景の動画供覧 0円 犬あるいは馬の骨格標本とポータブルX線発生装置を用いたX線検査の模擬撮影 0円 画像診断実習用PC 80万円～2023年にPCを更新 120万円 PACSサーバ連携 匿名化サーバ（動物病院の症例画像の供覧用） 200万円	研究室実習費：大学からの給付	動物の使用を極力減ずるように対応を始めた。 ポータブルX線装置は、附属動物病院の旧型を譲受し、曝射は行っていない。
	計	400万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり ■なし 30日程度／年 □小動物□大動物■共用	2020年	小児超音波診断ファントム 120万円 超音波検査用肺ファントム 150万円	ファントム：獣医学教育推進室予算	超音波検査装置は附属動物病院の旧型あるいは医学部附属病院からの旧型を譲受したものを使用
	2024年	3D プリンタ 80万円	プリンタ：教員の受託研究費	
	計	350万円		
年間運営費	2024年以降	3Dプリンタ印刷用フィラメント 15万円	教員の受託研究費	スキルスラボの予算と別に、匿名化サーバの保守に40～50万円/年
	計	15万円		

実習名：旧名可 （内容がわかりやすい実習名）	大動物総合臨床学実習（外科・内科系）（5年前期：平均125名）			
調査項目	年度	概算金額（初期設置費または年間運営費）	資金源	備考
生体使用時	2016年以前	家畜飼養管理費用 48万円/年 家畜購入費 10万円/年 実習用器具機械・消耗品・薬剤費用 10万円/年	研究室配分実習費	生体は十数名に1頭の割合で実習
	計	70万円		
スキルスラボ設置前	2016年～2018年	家畜飼養管理費用 48万円/年 家畜購入費 10万円/年 実習用器具機械・消耗品・薬剤費用 10万円/年	研究室配分実習費	生体は十数名に1頭の割合で実習
	計	70万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 □あり ■なし 10日程度／年 □小動物□大動物■共用	2018年より	OSCE用モデル子牛＋ロープ・バリケードなど 25万円×6体分＝150万円（初期設置時のみ） （OSCE前 10日間ほど使用） 子牛の模型 130万×3体 400万	大学運営費	
	計	550万円		
年間運営費	2018年以降	家畜飼養管理費用 48万円/年 家畜購入費 10万円/年 自習用器具機械・消耗品・薬剤費用 10万円/年	研究室配分実習費	生体は10名程度に1体の割合
	計	70万円		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		大動物病院(ポリクリ)実習(5年後期:平均125名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2016年以前	家畜飼養管理費 32万円/年 家畜購入費 10万円 実習使用器具機械・薬剤費 10万円/年	大動物病院実習費	
	計	55万円		
スキルスラボ設置前	2016年 ～ 2018年	家畜飼養管理費 32万円/年 家畜購入費 10万円 実習使用器具機械・薬剤費 10万円/年	大動物病院実習費	
	計	55万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☒ なし 0日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☐ 共用	0000年			
	計	〇〇万円		
年間運営費	2018年以降	家畜飼養管理費 32万円/年 家畜購入費 10万円 実習使用器具機械・薬剤費 10万円/年	大動物病院実習費	
	計	55万円		

日本大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		小動物外科学実習(4年次:120名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2024年以前	ビーグル犬(8頭)購入費:70万円/年 動物管理費:50万円/年	大学運営費	生体は15名で1頭
	計	120万円		
スキルスラボ設置前	2024年	皮膚パッド購入費:50万円/年 針付糸等消耗品購入費:2万円/年 手術モデル購入費80万円	大学運営費	モデルを8名で1個
	計	132万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☐ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☐ 共用	0000年			
	計	万円		
年間運営費	0000年以降			
	計	万円		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)		臨床繁殖学実習(4年次:120名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時	2010年以前	乳牛(5頭:14名1頭で隔週使用)購入費:60～80万円/年 動物飼料代:60万円/年 動物管理費:学生による無償	大学運営費	生体は14名で1頭
	計	140万円		
スキルスラボ設置前	2011年 ～ 2020年	乳牛(5頭:14名1頭で隔週使用)購入費:0～40万円/年 動物飼料代:0万円/年(付属農場より譲渡) と場子宮購入費:13万円/年	大学運営費	
	計	53万円		
スキルスラボ設置時費用 常設 ☒ あり ☐ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☒ 共用	2024年	繁殖学実習としては難産救助のファントム、直腸検査の模型を使用 実習の大部分で生体を使用し、共用のスキルスラボには繁殖関係は設置していない。		
	計	0万円		
年間運営費	2022年以降			
	計	万円		

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	小動物内科学実習(4年次:120名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	2024年以前	ビーグル犬(8頭:20名で1頭、隔週で10名で1頭を使用) 購入費:小動物外科学実習Aから支出 動物管理費び飼育施設利用費:60万円/年	学科予算 ・生体を20名で1頭使用(隔週で10名が1頭を使用) ・生体購入は小動物外科学実習Aから支出
	計	40万円	
スキルスラボ設置前	2024年	ビーグル犬(8頭:20名で1頭、隔週で10名で1頭を使用) 購入費:小動物外科学実習Aから支出 動物管理費び飼育施設利用費:60万円/年	大学運営費 ・生体を20名で1頭使用(隔週で10名が1頭を使用) ・生体購入は小動物外科学実習Aから支出
	計	20万円	
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☒ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☐ 共用	0000年		
	計	万円	
年間運営費	0000年以降		
	計	万円	

麻布大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	獣医(内科・外科・放射線)実習(4・5年次:120-150名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	2022年以前	ビーグル犬(6〜24頭:6〜10名1頭で隔週使用)購入費:50-200万円(平均120万円)/年 施設使用料(餌代・管理費等を含む)10万円 学生アルバイト代(休日対応)25万円	大学運営費 3つの実習で共有し、終了後(避妊手術後)は安楽死して解剖実習で使用
	計	155万円	
スキルスラボ設置前	2023年 ～ 2025年	皮膚パッド購入費:30万円/年 針付糸等消耗品購入費:15万円/年	大学運営費 ビデオ教材・VR教材制作については科研費・Dx補助金など
	計	45万円	
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☒ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☐ 共用	0000年	VR開発費 3500万円	教員科研費 等 現在設置について検討中
	計	3500万円	
年間運営費	年以降		大学運営費 現時点では現在運用されておらず不明
	計	万円	

日本獣医生命科学大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	外科実習(4年次:90名)		
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源 備考
生体使用時	2020年以前	ビーグル犬 14頭(約8名で1頭) 購入費1頭10万円～12万円 動物飼料代:不明	大学の実習費 生体は8名で1頭、デモンstrーション用に2頭
	計	168万円	
スキルスラボ設置前	2020年 ～ 2025年	避妊・去勢練習用キット消耗品:45セット 屠場臓器:12セット 食用ジャンボウサギ:12羽	大学の実習費
	計	100万円	
スキルスラボ設置時費用 常設 ☐ あり ☐ なし 日程度/年 ☐ 小動物 ☐ 大動物 ☐ 共用	0000年	スキルスラボは設置していない	
	計	万円	
年間運営費	0000年以降	スキルスラボは設置していない	
	計	万円	

岡山理科大学

実習名:旧名可 (内容がわかりやすい実習名)	小動物内科実習(3年次:140名)、小動物外科実習(3年次:140名)、獣医療面接実習(4年次:140名)			
調査項目	年度	概算金額(初期設置費または年間運営費)	資金源	備考
生体使用時		* 弊学部開学時に施設工事を実施のため不明	学部設置に関する経費に含まれる	
	計	* 弊学部開学時に施設工事を実施のため不明		
スキルスラボ設置前		2018年開学部の翌年2019年に設置したため、該当学年の学生が存在しない		
	計	なし		
スキルスラボ設置時費用 常設 ■あり □なし 30日程度／年 □小動物□大動物■共用		2019年～2020 模型購入費(犬、牛、非破壊:注射、整形検査等):300万円 年 手順を示すパネル(50万円)	大学運営費	OSCEのために学部内で準備した模型を10体購入し、1体をスキルスラボに転用しているため、詳細な値段等が不明
	計	350万円		
年間運営費		2021年以降 ドレープ、術衣、マスク、針、糸等消耗品:90万円	大学運営費	3年次の実習以外に、OSCE対策として学生(主に4年次)が常時利用可能
	計	90万円		

スキルスラボ設置費および継続的運営費調査(まとめ)

大学名	生体使用時	スキルスラボ設置前	スキルスラボ設置時	年間運営費
北海道大学	不明	不明	580万円(小動物) 大学運営費(機能強化経費)	50万円(小動物) 大学運営費
帯広畜産大学	54万円(小動物) 授業運営費	9万円(小動物) 授業運営費	204万円(共用) 不明	43万円(共用) 国際認証関連費
岩手大学	不明	不明	80万円(小動物)+450万円(大動物) 大学運営費	なし
東京大学	25万円(小動物) 教員の研究実費	150万円(小動物) 大学運営費	150万円(小動物) 大学運営費	150万円(小動物) 大学運営費
東京農工大学	不明	不明	設置せず	56万円(小動物) 大学運営費
岐阜大学	177万円(小動物) 大学運営費	10万円(小動物) 教員の研究実費	1300万円(小動物) 大学運営費	152万円(小動物) クラファン(1019万円) 模型開発としての科研費
鳥取大学	199万円(小動物) 学科経費	56万円(小動物) 教育用経費 教員研究費	626万円(小動物) 学長裁量経費(530万円)+学科経費	15万円(小動物) 学科経費
山口大学	不明	不明	590万円(小動物25%/大動物75%) 学部運営費	160万円(小動物50%/大動物50%) 学部運営費(650万円) クラファン(473万円)
宮崎大学	190万円(小動物60%/大動物40%) 大学運営費 大学運営基盤経費(担当教員負担)	30万円 大学運営費 大学運営基盤経費(担当教員負担)	45万円 大学運営費 学部戦略重点経費	100万円 大学運営費 動物病院運営経費
鹿児島大学	230万円(大動物) 大学運営費	5万円(大動物) 大学運営費	877万円(大動物) 国立大学改革強化推進補助金	53万円(小動物)+10万円(大動物) 学内予算
大阪公立大学	不明 大学運営費	170万円(小動物) 大学運営費	50万円(小動物)+90万円(大動物) 大学運営費	20万円(小動物)+8万円(大動物) 大学運営費
酪農学園大学	不明	不明	35442万円 大学運営費	248万円(小動物+大動物) 大学運営費
北里大学	415万円(小動物)+125万円(大動物) 大学実習費 研究室配分の研究費	465万円(小動物)+125万円(大動物) 大学実習費 研究室配分の研究費	350万円(小動物)+550万円(大動物) 獣医学教育推進室予算 教員受託研究費、大学運営費	15万円(小動物)+125万円(大動物) 教員受託研究費 研究室配分実習費、動物病院実習費
日本大学	160万円(小動物)+140万円(大動物) 大学運営費	152万円(小動物)+53万円(大動物) 大学運営費	今年度より	今年度より
麻布大学	155万円 大学運営費	45万円 大学運営費	3500万円 教員科研費 等	0 大学運営費
日本獣医生命科学大学	168万円(小動物) 大学の实習費	100万円(小動物) 大学の实習費	設置せず	設置せず
岡山理科大学	不明	なし	350万円 大学運営費	90万円 大学運営費